Actian Zen のトレースの見方



株式会社エージーテック

2019 年 9 月 6 日

免責事項

株式会社エージーテックは本書の使用を、利用者またはその会社に対して「現状のまま」でのみ許諾するものです。株式会社エージーテックは、いかなる場合にも本書に記載された内容に関するその他の一切の保証を、明示的にも黙示的にも行いません。本書の内容は予告なく変更される場合があります。

商標

© Copyright 2019 AG-TECH Corp. All rights reserved. 本書の全文、一部に関わりなく複製、複写、配布をすることは、前もって発行者の書面による同意がない限り禁止します

すべての Pervasive ブランド名および製品名は、Pervasive Software Inc. の米国および その他の国における登録商標または商標です。また、すべての Actian のブランド名は、 Actian Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。 文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Actian Zen のトレースの見方

最終更新: 2019 年 9 月 6 日

Btrieve API を使用しているアプリケーションで、ハンドリングしていないステータスが返っている場合や、拡張オペレーションのように構造体でパラメータを渡しているような時に、データがどのように渡り、どのような結果が返っているかを調査したいことがあります。

時には、ロックエラーが発生している時、関連しているクライアントを調べたいこともあります。

そのような時は、PSQL エンジンのトレース機能が役立ちます。

トレースを開始するには、Control Center から、エンジンのプロパティを開き、デバッグを選択し、「トレースオペレーションの実行」をチェックして「適用」ボタンをクリックします。

トレースの ON/OFF は、エンジンの再起動を行うこと無く適用可能です。

トレースでは、Btrieve API で渡されたほとんどの引数が記録され、データバッファおよび キーバッファについては 16 進ダンプ形式で記録されます。

トレースは次のような情報が記録されます。

```
Keynum : 00
<In> 0107
             Opcode : 0000
                               Crs ID : Oxffffffff Db Length : 00000
Cint ID : 000000000000000000000B1C 5752 0000 Timer : 000000000C24CDB4
                                                                                  Time : Mon
Jul 29 16:11:23 2019
DBuf:
             00 00 00 00 00 00 00 00 - 00
             5c 5c 73 73 2d 50 53 51 - 4c 76 31 33 5c 43 24 5c 50 72 6f 67 72 61 6d 44 - 61 74 61 5c 41 63 74 69
                                                                        ¥¥ss-PSQLv13¥C$¥
KBuf:
                                                                        ProgramData¥Acti
             61 6e 5c 50 53 51 4c 5c - 44 65 6d 6f 64 61 74 61
                                                                        an¥PSQL¥Demodata
             5c 50 45 52 53 4f 4e 2e - 4d 4b 44          ¥PERSON.I
"¥¥ss-PSQLv13¥C$¥ProgramData¥Actian¥PSQL¥Demodata¥PERSON.MKD
                                                                        ¥PERSON.MKD
File:
Target:
             Local engine
Keynum : 00
Jul 29 16:11:23 2019
             00 00 00 00 00 00 00 00 - 00
5c 5c 73 73 2d 50 53 51 - 4c 76 31 33 5c 43 24 5c
DRuf:
                                                                        ¥¥ss-PSQLv13¥C$¥
KBuf:
             50 72 6f 67 72 61 6d 44 - 61 74 61 5c 41 63 74 69
                                                                        ProgramData¥Acti
             61 6e 5c 50 53 51 4c 5c - 44 65 6d 6f 64 61 74 61
5c 50 45 52 53 4f 4e 2e - 4d 4b 44
                                                                        an¥PSQL¥Demodata
                                                                        ¥PERSON.MKD
```

<In>は、アプリケーションから渡された引数が表示され、<Out>にはアプリケーションに返るときの引数(バッファ)の内容が表示されます。<In>・<Out>の後ろの番号はシーケンス番号です。

Opcode は、オペレーションコードです。

Crs ID は、クライアントおよびファイルを識別する番号です。

Db Length は、データバッファ長です。

Keynum は、キーナンバーです。

Clnt ID は、12 バイトの PSQL が内部で使用するデータに加え、2 バイトのサービス エージェント ID、2 バイトのクライアント識別子です。

BTRVID 関数でクライアント ID を指定した場合、クライアント ID に設定したサービス エージェント ID およびクライアント識別子が表示されます。

Timer は PSQL エンジン内部の積算タイムが、ミリ秒単位で出力されます。Timer の値で PSQL エンジンが処理を行っている順番、In と Out の差から処理にかかった時間を特定できます。

Time は、システム時間が記録されます。

DBuf はデータバッファの内容が記録され、KBuf には、キーバッファの内容が記録されます。

Open オペレーションの場合には、File にファイルパスが表示されます。

また、Open オペレーションでは、

Target には、「Local engine」と表示されます。

<Out>に出力される内容も基本的に<In>と同じです。

Opcode の代わりに Status が 出力され、Btrieve API の戻り値が表示されます。

サーバー上のアプリケーションでは、 $Clnt\ ID$ の初めの 12 バイトは 0x00 となります。 リモートアプリケーションの場合、 $Actian\ Zen\ (PSQL)$ のバージョンにより出力される情報が異なります。

PSQL v10 までは、7 バイト目 から 10 バイト目の 4 バイトに IP アドレスが出力されます。

例えば、

Clnt ID: FFFFFFFF0000AC180674D108 5752 0421

では、AC180674 が IP アドレス で 172.24.6.116 になります。

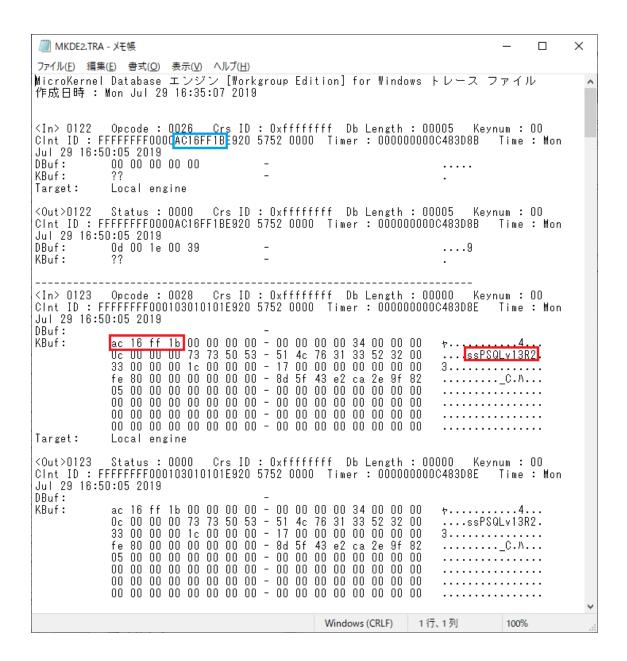
PSQL v11 以降では、IPv6 対応で Clnt ID に IP アドレスを記録できなくなったため、Clnt ID には出力されなくなっています。

PSQL v11 以降では、Open オペレーションを実行すると、PSQL の Client モジュール内 部で Version オペレーション -> Reset オペレーションの順に行われ、その後 Open オペレーションが行われます。

Version オペレーションでは、図の水色の枠部分に IPv4 アドレスが記録されます。

Reset オペレーションでは、図の赤枠部分に IPv4 アドレスおよびマシン名が記録されます。

Open オペレーションでは、Crs ID にクライアントおよびファイルを識別する番号が設定されますので、それ以降 Crs ID で識別します。



なお、Open オペレーションの IN と OUT は通常連続して出力されません。 これは、PSQL エンジンが内部でセキュリティのチェックのため DBNAMES.CFG や DEFAULTDB (Btrieve ファイルがデータベースに登録されていない場合) を Btrieve ファイルの Open オペレーションの途中で参照するためです。(これらの処理もトレースに記録されます。)

Open オペレーションのトレースには、DBuf に「NOTSHOWN.」と記録されることがあります。

これは、Btrieve ファイルに設定された Owner Name が DBuf に設定されていたことを

表します。

Owner Name は Btrieve ファイルにアクセスするためのパスワードと同等で、トレースでは非表示となります。

DBuf に「NOTSHOWN.」が設定されていたのではなく、Owner Name が設定されていたので非表示にしたことを表します。

トレースには、SQL エンジンが実行している Btrieve API も記録されます。

トレースを採取することで SQL エンジンが検索を行う際、どのキーを使用しているかを確認することも可能です。